

令和 5 年 9 月 15 日

新潟市立木崎小学校便り



きざき

題字：寺尾 貞男 氏（笹山）

令和 5 年度 第 4 号

「生きる力」を育む

校長 島津弘次

「学習指導要領」とは、全国どこの学校でも一定の水準が保てるよう、文部科学省が定めている教育課程（カリキュラム）の基準です。およそ 10 年に 1 度、改訂が行われ、現在の学習指導要領は、平成 29 年に告示されました。子供たちの教科書や時間割は、これを基に作られています。「小学校学習指導要領」は書籍の形をしていますが、「編集」や「発行」ではなく、「告示」と表される場所に特別な意味があります。「告示」とは、行政機関が法令・条例などの規定又は権限に基づいて決定した事項その他一定の事項を広く一般住民に周知する場合に用いる文書の形式をいいます。つまり学習指導要領は、法的な側面をもっているということになります。「木崎小学校は、独自性を大切にしたいから、学習指導要領には従わない」ということはできません。現行の学習指導要領では、「生きる力」を大切にしています。そして、児童が学校教育の中で身につけるべき資質・能力について、3 つの観点で説明しています。

- ①知識・技能…何を理解しているか、何ができるか
- ②思考・判断・表現等…理解していること、できることをどう使うか
- ③学びに向かう力・人間性…どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか

先日こんな姿が見られました。校長室のお掃除に来てくれていた 5 年生の T さん。その日はちょうど掃除機を使っていたところで、急に放送が鳴りました。T さんは、掃除機の電源を切り、スピーカーの下に移動しました。この姿を上の資質・能力に照らしてみます。

- ①知識・技能…放送がなるということは何か大事な連絡に違いない。掃除機がうるさいと放送がよく聞こえない。スピーカーの下なら放送の音が大きいはずだ。
- ②思考・判断・表現…今放送を聞き逃すと、後で誰かに聞き直さなければならないぞ。それは結構めんどくさいことだ。掃除機の電源を切るのは、指一本でできるし、しかも 1 秒もかからないぞ。

T さんは、きっとこんなことを意識してはいなかったと思います。すこし大げさですが、私は、T さんの何気ない姿の中に「生きる力」が育まれていると感じました。子どもたちは、日々成長していますが、その変化はごくごくわずかなものです。意図的に見ようとしなければ見えないし、ぼんやりと見ていたのでは見逃してしまいます。子どもの成長をしっかりと見取って適切に声をかけることで、子どもたちひとりひとりの自己効力感を高めていきたいと考えます。

学校評価中間報告

「保護者意識調査」にご協力いただきありがとうございました。4月からの教育活動を振り返りました。その結果をお知らせします。

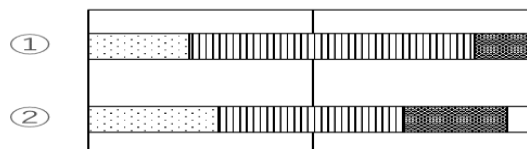
グラフの見方 □ そう思う ▨ まあそう思う ▩ あまり思わない □ そう思わない
 「そう思う」と「まあそう思う」を肯定的評価として捉えています。

1【資質・能力&授業力】

対話を通して、自分の考えを深めたり広げたりできる力をつけることに重点的に取り組んでいます。

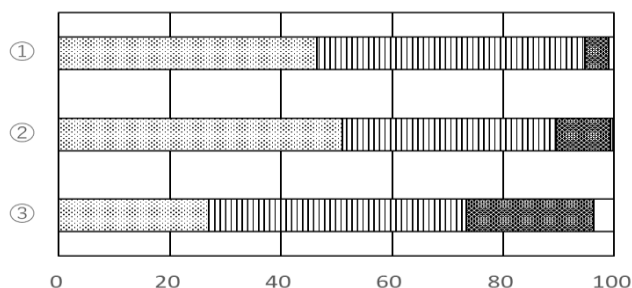
<保護者意識調査>

項目	肯定的評価の割合
① 学校の学習の内容を理解している。	86.0%
② 「10分×学年」の家庭学習をしている。	70.2%



<子どもアンケート>

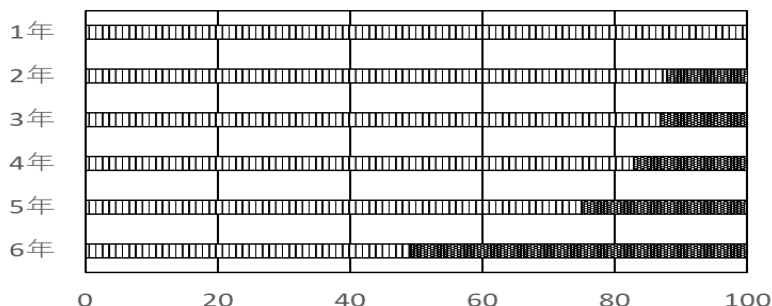
項目	肯定的評価の割合
① 国語の勉強が分かる。	94.7%
② 算数の勉強が分かる。	89.5%
③ 考えを伝えたり、発表したりしている。	73.4%



○家での1日の勉強時間について

(▨; 10分×学年している ▩; 10分×学年していない)

学年	「10分×学年」以上の割合
1年	100%
2年	87.5%
3年	86.5%
4年	83.3%
5年	74.5%
6年	49.3%



<今後に向けて>

木崎小学校では、「対話で学びを深める」学習を目指して、友達と関わり合いながら意見を述べ合ったり、交流したりする学習活動を行っています。

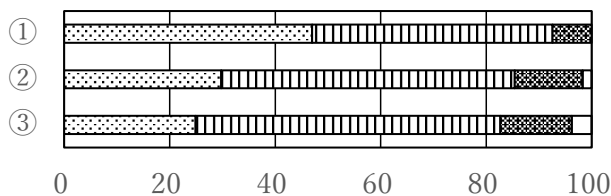
「学習内容が分かっている」に対する肯定的評価では、保護者は86%、児童は国語94.7%、算数89.5%と、高い評価が得られました。「考えを伝えたり、発表したりしている」では、73.4%の児童が肯定的な評価でした。今後も対話を大切にした学習活動を工夫していきます。

家庭学習については、「10分×学年」が学習時間の目安となっています。保護者の肯定的評価は70.2%でした。児童の評価では、学年が上がるにつれて達成率が下がる傾向が見られました。3年生以上は、毎日帰りの会に10分間の「ステップアップタイム」を設け、家庭学習の計画を自分で立てています。9月に家庭学習の取り組み方について再指導を行い、自分に合った学習に継続して取り組んでいけるよう励ましていきます。ご家庭でもお子さんの家庭学習の取組について声掛けや確認をお願いします。

2【自立・支持的風土】 子ども一人一人を多面的に理解し、子どもに良さを伝えることで自己肯定感を高めるとともに、子どもとの信頼関係を築くことを重点目標として取り組んでいます。

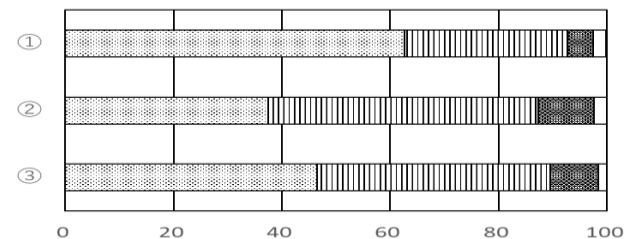
<保護者意識調査>

項目	肯定的評価の割合
①学校に行くのが楽しそうである。	92.6%
②家族や地域の方にあいさつをしている。	85.4%
③周りの人のことも考えて行動している。	82.7%



<子どもアンケート>

項目	肯定的評価の割合
① 学校は楽しい。	92.7%
②自分にはよいところがあると思う。	87.3%
③周りの人のことも考えて行動している。	89.5%



<今後に向けて>

「学校が楽しい」については、児童が 92.7%（令和 4 年度 90.2%）、保護者が 92.6%（令和 4 年度 90.6%）の肯定的評価をしていて、昨年度と比べると上がり、高い割合と言えます。学校生活が充実している様子が数値から読み取れます。

「あいさつ」については、保護者の肯定的評価が 85.4%（令和 4 年度 81.5%）で、家庭・地域でも「あいさつ」が身に付いていることがうかがえます。引き続き、家庭・地域・学校が連携・協力して取り組んでいければと思います。

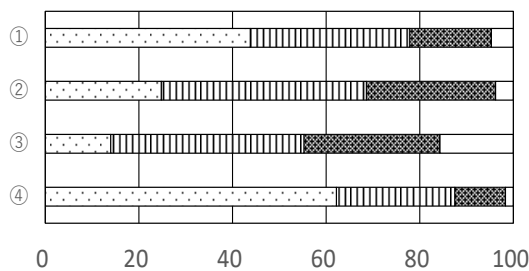
「自分にはよいところがあると思いますか」については、児童の肯定的評価が 87.3%（令和 4 年度 82.6%）です。自己肯定感（自信）は、学習面でも生活面でも重要な要素です。学校では、様々な場面で子どもを褒め、認める指導を行っています。今後、さらに自己肯定感（自信）を高める指導を実施していきます。

「周りの人のことも考えて行動しています」の肯定的評価は、児童が 89.5%（令和 4 年度 88.6%）、保護者が 82.7%（令和 4 年度 80.4%）です。思いやりの心を育てることを目標に指導している成果が、表れていることがうかがえます。

3【体づくり】 食育の充実や生活習慣の改善，体力の向上について重点的に取り組んでいます。

<保護者意識調査>

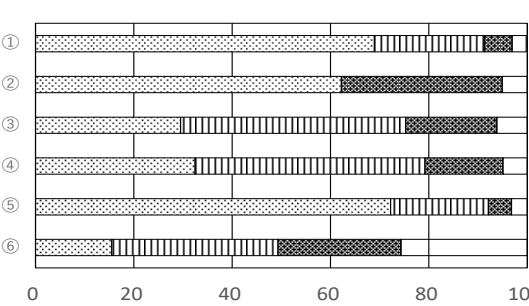
項目	肯定的評価の割合
①進んで体を動かして遊んだり運動したりしている。	77.9%
②食事に関心を持ち、残さず食べようと心がけている。	68.6%
③平日のテレビやゲームの時間。	55.3% (1時間以内～2時間の範囲)
④朝・晩、歯磨きをしている	87.5%



③は、 1時間以内 1～2時間 2～3時間 3時間以上

<子どもアンケート>

項目	肯定的評価の割合
①体を動かして遊んだり運動したりすることは楽しい。	91.3%
②給食を残さず食べている。	94.9%
③食事の手伝いをしている	75.3%
④朝晩、歯磨きをしている。	92.1%
⑤平日、テレビやゲームの時間。	49.3% (1時間以内～2時間の範囲)



⑤は、 1時間以内 1～2時間 2～3時間 3時間以上

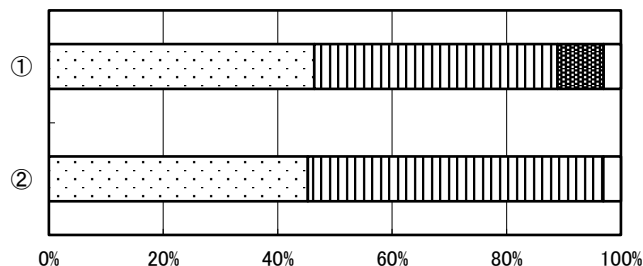
<今後に向けて>

今年度の重点目標は、食を通して健康・栄養面での理解を深め、主体的に家庭生活に関わろうとする態度を育むことです。児童アンケートの「家で食事の手伝いをしている」という項目では、肯定的な評価75.3%でした。体験を通して学んだ調理の仕方などを家庭で取り組んでみたり、学習で学んだ食材の良さを生かしたメニューを考えたりして実生活で生かす様子が見られてきています。今後も、継続して食の大切さを伝え、きざキッズすこやか週間やお弁当の日を通して、保護者と協力しながら意識して取り組んでいきます。

4【特別支援教育】

自立と社会参加を目指した適切な支援を行うと共に、児童同士が互いの理解を深め、多様な個性を尊重できる環境作りを行うことに重点的に取り組んでいます。

項目	肯定的評価の割合
① お互いのよさを認め合っている。〈児童アンケート〉	88.9%
② 個別の教育支援計画並びに個別の指導計画を活用し、全職員で情報の共有、評価、見直しを行う。〈教職員調査〉	93.8%



<今後に向けて>

個別の指導計画の作成のポイントについて共通理解したり、学年部ごとに指導計画を読み合ったりする職員研修を夏休みに行いました。また、特別支援についての便りを発行しました。今後も特別支援への理解を深め、適切な対応ができるように努めていきます。

特別な支援を要する児童については、早期対応が重要であると考えているので、職員間の共通理解を深めたり、保護者の方への定期的な発信を行ったりしていきたいと考えています。また、多様な個性をもつ子どもたちが学校で安心して過ごせるように、職員全体でユニバーサルデザインを取り入れた環境作りに努めていきます。

6年生佐渡修学旅行 思い出

6年1組 大橋 帆花

私たちは七月四日と五日の二日間にわたって佐渡体験学習に行ってきました。楽しくて思い出に残ったことが三つあります。

一つ目は、初めてカーフェリーとジェットホイルに乗って友達と一緒に話したり遊べたりできたことです。普段話さないようなことも話せてすごく楽しかったです。

二つ目は、バスの中です。佐渡では移動時間が多かったです。それでも友だちと座って過ごしたことが楽しかったです。さらに偶然トキを見ることができて、すごくラッキーだと思ったし、バスの中はとても楽しかったです。

三つ目は、佐渡金山です。思ったよりも寒くてびっくりしました。佐渡金山では人間の形をした人形が動いていて面白かったです。金を持つとうと思いましたが、重たくて持てなかったです。それでも楽しかったです。

初めて乗るものや、初めて見たものが多くてすごく行ってよかったと思ったし、友だちと一緒に過ごした二日間は、一生の思い出に残りました。

6年2組 岩橋 絃

私が佐渡に行って、特に思い出に残っていることは、二つあります。

一つ目は、佐渡金山です。初めて見学して、昔の人はたくさんの道具を使って金をとっていたことを知って本当にすごいなと思いました。実際に、金山の中を見ることができ、さらにたくさんのことを発見できてよかったです。

二つ目は、宿泊したホテルです。わたしたちが泊まったホテルの部屋は、なんと十人部屋だったので、おしゃべりをしたり、カードゲームをしたりして、みんなでたくさん笑ってとても楽しく過ごすことができました。

他にも、初めての体験がたくさんありました。友達と一緒に船に乗ったこと、砂金とりに挑戦したこと、たらい船を操縦してみたことなど、どれも素敵な思い出になりました。佐渡に行って本当によかったです。